

# 寺報

令和5年(2023)正月号第150号(1)

発行 福島市田沢字寺前18  
長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 024(573)1202

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail [info@choshuin.jp/](mailto:info@choshuin.jp/)

編集責任・渡辺 祥文



恭賀  
賀  
新禧

専ら祈る所は

正法興隆

修道無難

国土安穩

万邦和平

特に祈る所は

福寿長久

子孫繁栄

諸災消除

諸縁吉祥

新型コロナウイルス感染症の  
早期収束・終息を祈願祈禱し、  
皆様の健康と無事を念じ、あわせて  
本年のご多幸を心より祈り上げます

仏紀二五八九年  
邦曆令和五年  
西曆二〇二三年

元旦

山



祥





# 雲水日記 その八

渡辺 秀憲

一気に冬らしい寒さになってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

前回は新入り修行僧たちの顔見せの場、暫到入堂の拝をお伝えしました。今回はよいよ修行道場の役目の一つを任される衆寮での体験です。

修行道場では、修行生活を円滑に営むため、修行僧の一人一人に役目が与えられます。特に永平寺ではお役目ごとに専門の部署があり、そこに配属される形で修行道場のお役目を果たします。一人一人のお役目のことを「配役」、部署を「寮舎」と呼びます。

今までのお客さん扱いから、やっと修行僧の一員として認められた私たちに与えられる配役は「鐘酒」、寮舎は「衆寮」です。「鐘酒」の鐘は「鐘つき」の鐘、酒は「洒掃」の酒、すなわち掃除を意味します。鐘や鈴などの鳴らし物と、掃除を専門にするお役

目というわけです。「衆寮」は修行僧の集団をさす「大衆」の衆の字からきており、修行僧の修行と生活の場である「僧堂」の管理を担います。つまり、僧堂に詰めて鳴らし物と掃除をするお役目なのです。

修行道場では、坐禅も法要も生活も、すべて鳴らし物が合図になります。朝起きる時間を知らせる鈴、坐禅の開始を知らせる鐘、掃除の開始を知らせる太鼓、などなど。鳴らし物を知るといことは、修行道場の一日の流れを知ることと等しいのです。新入り達は役目を振られてもまだひよこ、まず鳴らし物に触れることで永平寺の生活に慣れていくのです。

しかしやはり新入り、鐘の打ち方の作法も知らなければ、永平寺の場所の名前もろくに知りません。特に最初のうちは、決められたとおりに完璧に役目を果たすことはとても難しいです。



約七十名の新入りの雲水が一年間、鐘・太鼓を担当し、次の年には新入りの雲水が引き継いでいきます。ですから、鐘でも梵鐘を撞くことは永平寺に三年いても各自二回か三回しか役目が巡ってきません。教えられた通りに間違えないように、定刻通りに撞くように、必死の形相となります。私も心臓が飛び出そうに緊張して一撞一撞しました。今思えば、一瞬の大切さ、人とのつながり連繫を教えてもらいました。そして鐘を鳴らすことを間違えるということは、自分のミスが永平寺中に知れ渡るといふことと。

「今日の鐘の担当、誰だ？間違っただらう？」新入り雲水は、叱られ、指導してもらうことに慣れることも大事なのでした。次回に続きます。



# 大雄山最乗寺晋山式

令和四年十一月二十一日～二十二日

何度か団参でうかがっている小田原の大雄山最乗寺に増田友厚老師が晋山されました。増田老師は住職の大先輩で、四十年来のご指導・ご交誼をいただいているご老師です。今般、十一月二十二日に大雄山へ晋住されました。当山には大震災以来何度も支援や学習会等でご来山頂きました。今後コロナ禍が落ちついたら、大雄山への参拝も是非再開したいと存じます。

杉並木が、幽玄さを伝える大霊場です。住職も晋山式に参列させて頂き本当に光栄でした。



増田友厚老師



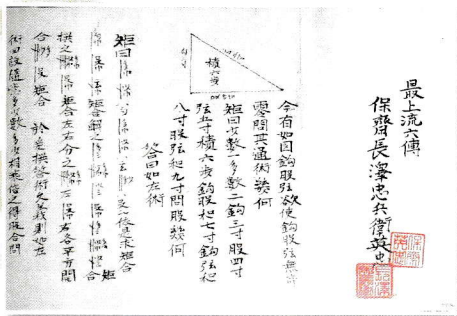
晋山行列

## 「金谷川の和算の

## 昔と今とこれから」

## の贈呈を受ける

金谷川は「和算」の中心地ともいえる場所でした。この度、檀中の長澤忠敬氏より、献本頂きました。長澤家は、和算の中心の家の一つでありました。表紙の四巻のうち三巻は長澤家の所蔵で県立博物館に貸出し中だそうです。現在はあまり知られておらずなかなか理解できなくなっていますが、日本独自の数学として研究され「結社」「講」として発達したと伝えられています。今、ようやく研究が進みつつあるとのことですので、ここに献本して頂きましたので、ご紹介いたします。



奥義書の一部



頂いた冊子の表紙  
四巻の奥義書の三巻が長澤忠敬家所蔵



# 「ウイズコロナ」ということ (六)

## 第八波の中で

やはり新型コロナウイルス感染症は第八波を迎えてしまった。

九州・関西・東京などのあちこちの住職たちから電話やメールが来る。

「東北より北が罹患率でトップテンに入っているけど、渡辺さん大丈夫?」

「どうして東北より北が罹患率高いの?」

理由も全てわからない。流行は一足おくれで東北に入ってくるということなのかなとも考えていると、京都の法衣店から心配やお見舞いの電話があった。

「方丈さん、全国罹患率福島県第二位大丈夫ですか?心配しています。」

「何とかやっていますよ。大丈夫です。」

「それは良かったです。でもどうしてこんな結果なのでしょう?私思うんですけど東北の方々は真面目なので、きちんと報告や検査を受けているのだと思います。うちの方関西は、もう、流行の新しい病気なのに安心してきています。ですから、ちよつと、実数ではなく、数が少なくて出ているのだと思います。」

「あつ、そういうことも言えるのかあ。」

「私の想像でもあるのですが、そういうこともあると思います。軽症の人は全く気にしていない人も多いので…」

「なるほどねエ」

少し安心した。それも言えると思ったのである。

その後何人かのお医者さんたちに聴いてみると、

「油断大敵です!罹患しないのならしない方が良いでしょう。まだ三年しかたっていないのです」

「先生、もう三年たったんじゃないんですか」

「いいえ、高齢者には危険なのです。海外の論文の中には、何度も罹患すると、心肺にダメージが残り死亡しやすくなるということが報告されています。素人考えはやめてください」

確かにそうなのだ。

秋になって私自身、九州福岡、秋田、東京、神奈川など六回ほど出張している。それでも罹患しないのは、口うるさく言ってくれる家族のお陰であろう。前号でも言っているが、罹患することが悪いということではない。仕方ないことである。第七波で、身近な人々が

多く患っている。もう、二年前までの様子ではない。

互いに支えあつて、

みんなで思いあつて。

お互いに、分断という状況はつくってはならない。しかし、エチケットとして手指消毒・マスク着用等の予防対策は必要である。インフルエンザが重なると本当に厳しい状況になる。

共に支えあうしかない。四年目になるといつても、ウイルスと取り引きはできない。

今も病院施設に面会等は原則できない。エッセンシャルワーカーは、皆最大限の注意をはらって生活している。厳しい自ルールを自らに課し日々闘っている。それでも第八波で罹患する人も多く亡くなる人も当然多くなっている。経済のために普通にもどすしかないし、普通に近づけている。

共に支えあうしかない。また後遺症に苦しんでいる人も少なからずいるので、大切に、大事にお互い支え合いたい。(住職拝記)

### 感謝録

ありがとうございます

#### 草刈奉仕

長秀院役員・有志各位  
仲興寺役員・有志各位

#### 雪吊り奉仕

有志各位



令和四年度

# 梅花流創立七十周年記念福島県奉讃大会

令和四年十月十九日 於パルセいいざか

梅花流創立七十周年記念福島県奉讃大会が令和四年十月十九日、福島市飯坂温泉「パルセいいざか」において、開催されました。

長秀院講・仲興寺講ともにそれぞれ丹治敏子さん、阿久津マサ子さんが代表登壇奉詠を行いました。「詠頭」を丹治敏子さんがつとめ、県北地区としても立派なご奉詠でした。両講の皆さんは常日頃練習に励まれておりましたが、コロナ禍でそれもままなりませんでしたが。

お陰様で少人数代表の参加でありましたが、七十周年を祝うことができました。お釈迦さまのみ教え、道元禅師さまのみ教え、瑩山禅師さまのみ教えを、節をつけてお唱えするのが梅花流です。コロナ禍を越えてさらに歴史を重ねてまいります。三年振りに素晴らしい大会に参加できたことを、講員一同無上の喜びよろこと感じています。ありがとうございます。

(寺族 拝記)



長秀院講



仲興寺講



# 除夜の鐘



## 2022年12月31日

午後11時30分打出し

マスク着用にて、係の誘導に従って下さい。  
誘導に従って撞いていただきますので宜しくお願  
いいたします。

## 行事案内

### ★長秀院

十二月三十一日 午後十一時三十分

除夜の鐘打出し

元旦 午前零時三十分

元朝祈禱

### ★仲興寺

元旦 午後一時

元朝祈禱

以降 一月中、年始回礼

年頭回礼だけでは間に合わな  
くなつてまいりました。つきま  
しては、年末にご挨拶申し上げ  
るお宅もでてまいりますので、  
何卒宜しくお願ひ申し上げます。

### おねがい

年始回礼中は不在となり  
ます。ご相談等の場合はご来  
山前に確認をお願いいたし  
ます。

電話〇二四一五四八一二四〇  
FAX 右同

### 年回正当

年回正当のほとけ様方のご  
命日をご確認ください。ま  
た、ご連絡と貼り出しをご  
覧頂きますよう、お願いい  
たします。

### 年回表

一周忌	令和四年(二〇二二)
三回忌	令和三年(二〇二一)
七回忌	平成二十九年(二〇一七)
十二回忌	平成二十三年(二〇一一)
十七回忌	平成十九年(二〇〇七)
廿二回忌	平成十三年(二〇〇一)
廿七回忌	平成九年(一九九七)
卅二回忌	平成三年(一九九一)
卅七回忌	昭和六十一年(一九八七)
五十回忌	昭和四十九年(一九七四)
百回忌	大正十三年(一九二四)
百五十回忌	明治七年(一八七四)
二百回忌	文政七年(一八二四)
二百五十回忌	安永三年(一七七四)
三百回忌	享保九年(一七二四)
三百五十回忌	延宝二年(一六七四)
四百回忌	寛永元年(一六二四)